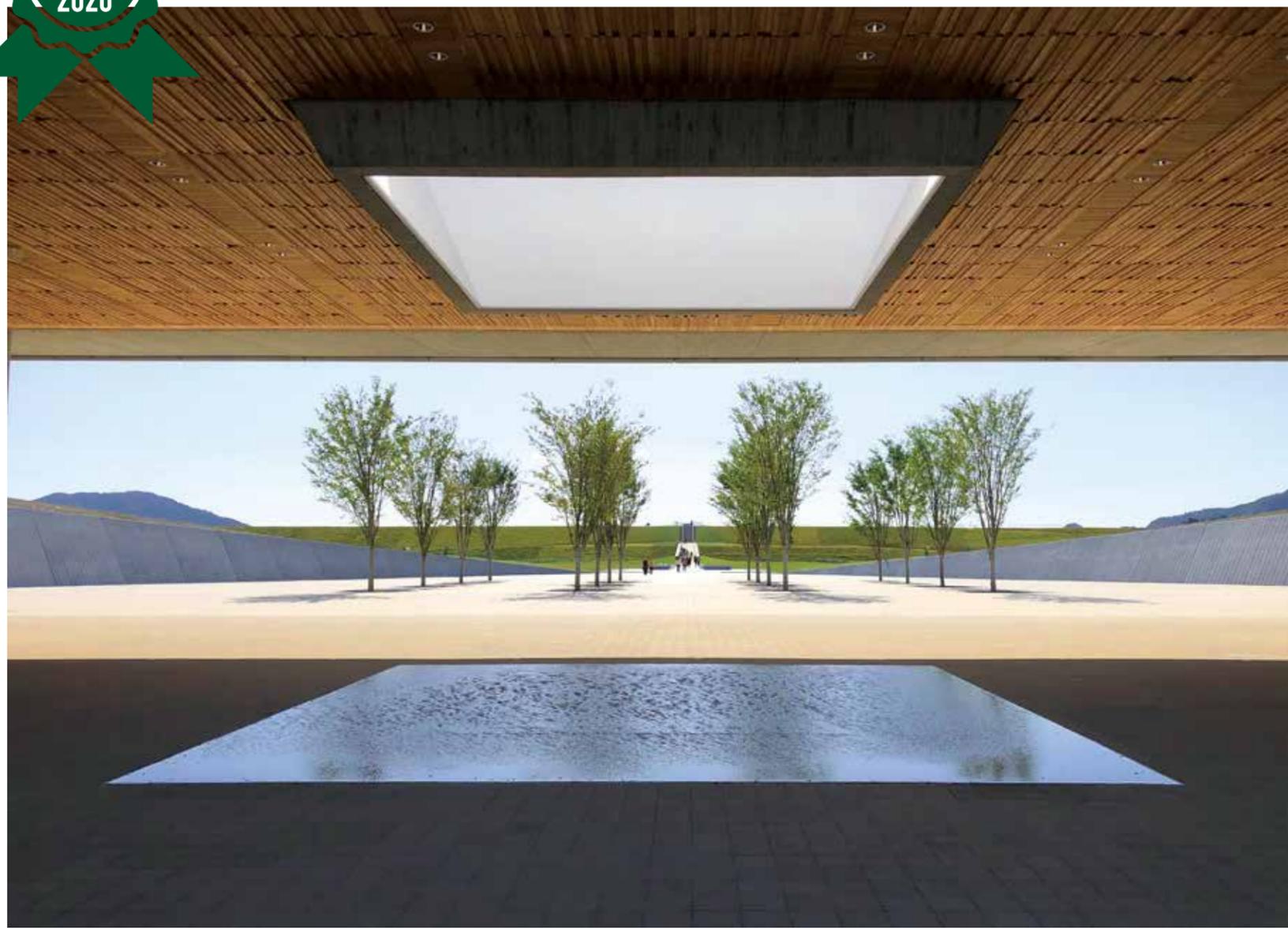




最優秀賞

設計部門



高田松原津波復興祈念公園 国営追悼・祈念施設

株式会社ブレック研究所
奥山伊作・前澤洋一・酒井 学・森田 緑・宮脇侑子

高田松原津波復興祈念公園は、東日本大震災が未曾有の大災害であったことを鑑み、国・岩手県・陸前高田市が連携し、復興の象徴として整備するものである。このうち、国が整備する国営追悼・祈念施設は、閣議決定された、①東日本大震災による犠牲者への追悼と鎮魂、②震災の記憶と教訓の後世への伝承、③国内外に向けた復興に対する強い意志の発信の3つを目的

とした本公園の中核を成す施設である。本作品は、令和元年9月22日に一部開園した「祈りの軸」を中心とする約2.0haのエリアを対象としている。

我々は、国営追悼・祈念施設の造園土木（エリア全体）の基本・実施設計を行うとともに、管理棟（道の駅高田松原+東日本大震災津波伝承館）の建築設計を内藤廣建築設計事務所との設計共同体で行った。

基本設計では、「空間デザイン検討委員会」（委員長：篠沢健太 工学院大学教授、副委員長：平野勝也 東北大学准教授）

作品概要
作品名—— 高田松原津波復興祈念公園 国営追悼・祈念施設
所在地—— 岩手県陸前高田市
発注—— 国土交通省東北地方整備局建設部 及び
国土交通省東北地方整備局東北国営公園事務所
設計—— 株式会社ブレック研究所
設計協力—— 株式会社内藤廣建築設計事務所（建築設計共同体）
株式会社復建技術コンサルタント（土木構造設計補助）
監理—— 国土交通省東北地方整備局東北国営公園事務所
ブレック研究所・内藤廣建築設計事務所設計共同体
施工—— 西松建設株式会社、大成設備株式会社、株式会社四電工、
株式会社平野組、小岩井農牧株式会社、株式会社伊藤組、
株式会社相友建築、シブコー東日本株式会社、
有限会社金野鉄工所
設計期間—— 基本計画期間：2014年7月～2015年3月
設計期間：2015年7月～2019年3月
（造園土木・建築に関わる基本・実施設計等の合計）
施工期間—— 2017年10月～2019年6月
規模—— 約2.0ha（「祈りの軸」を中心とする一部開園エリア）
主要施設—— 祈りの軸：園路、献花の場、人道橋、海を望む場
園地等：築山、芝生広場（イベント対応）
建築：管理棟（道の駅高田松原+東日本大震災津波伝承館）

作品評
本作品は、東日本大震災の被災地に計画された、震災復興の象徴となる津波復興祈念公園の中核施設となる「国営追悼・祈念施設」のランドスケープ及び建築の基本・実施設計を行ったものである。
施設の特性から、「追悼・鎮魂・震災の伝承・復興の意志」などの思いを伝える神聖な空間をデザインで表現することに加え、建築物との調和や海岸防潮堤の津波対策などの多岐にわたる対応が求められたが、応募者は、海に通じる切通し空間の形成やコンクリートの形状を持つ祈りの軸の配置、追悼・鎮魂の3つのスクウェアの配置、独自構造の防潮堤づくりなどでこれらの要請に応え、空間と建築物が一体化した追悼・祈念の空間を見事に表現している。
本作品に対しては、敷地の活かし方など5つの選考視点全てで満点に近い評価がなされ、最優秀賞となった。

設計部門



でデザイン検討を進め、実施設計では、基本計画当時の内藤廣委員をアドバイザーに迎え、細部に至る議論を重ねながら、造園、土木、建築の垣根を越えた一体的な検討を行った。

国営追悼・祈念施設は、津波の来襲した広田湾から津波が遡上した気仙川へと至る「祈りの軸」を中心に、奇跡の一本松、震災遺構タピック45（旧道の駅）、海岸防潮堤等と一体となった追悼の広場で構成している。

かさ上げ市街地側の日常空間と追悼と鎮魂の非日常空間の境界として管理棟を配し、両翼の築山による凹状の地形と海側へ

絞り込まれた切通し壁により、「祈りの軸」を象徴的に表現している。

また、園路の縁取りや人道橋の高欄形状による軸線の強調、縁石等の日常的な素材感の排除等により、「祈りの軸」を明快なラインとして仕立てている。

さらに「祈りの軸」では、神社における鳥居・手水舎、拝殿、奥宮のように、3つのスクウェア（管理棟ゲート部・献花の場・海を望む場）を置き、追悼と鎮魂の憶いを徐々に深化させる場を形成している。